

浜岡原子力発電所4号機 気体廃棄物処理系の点検について

平成21年5月7日

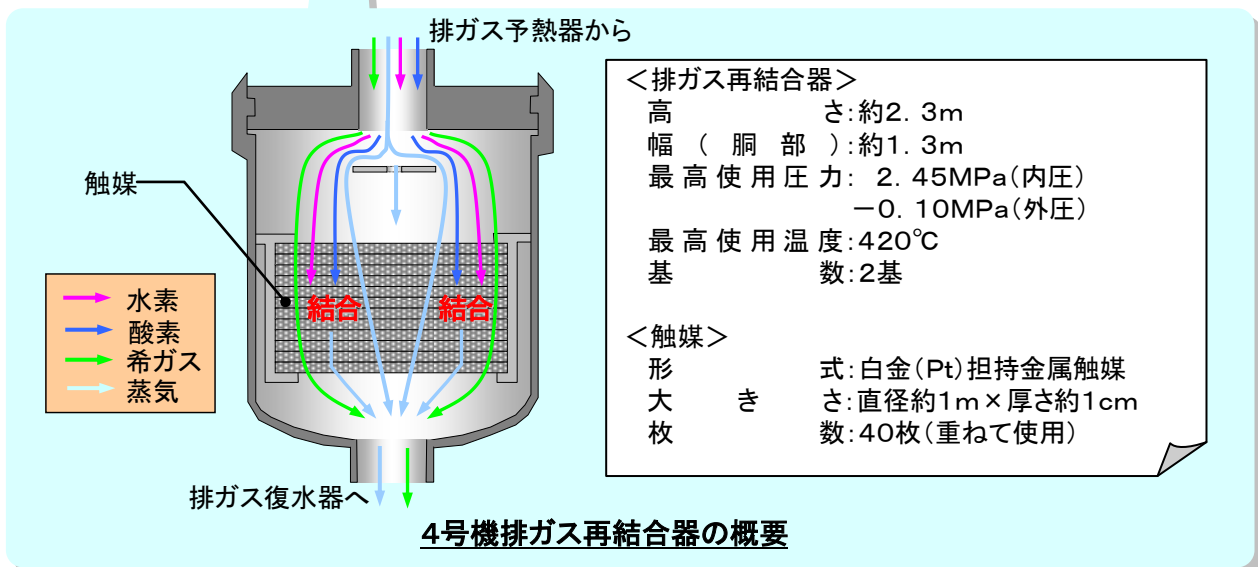
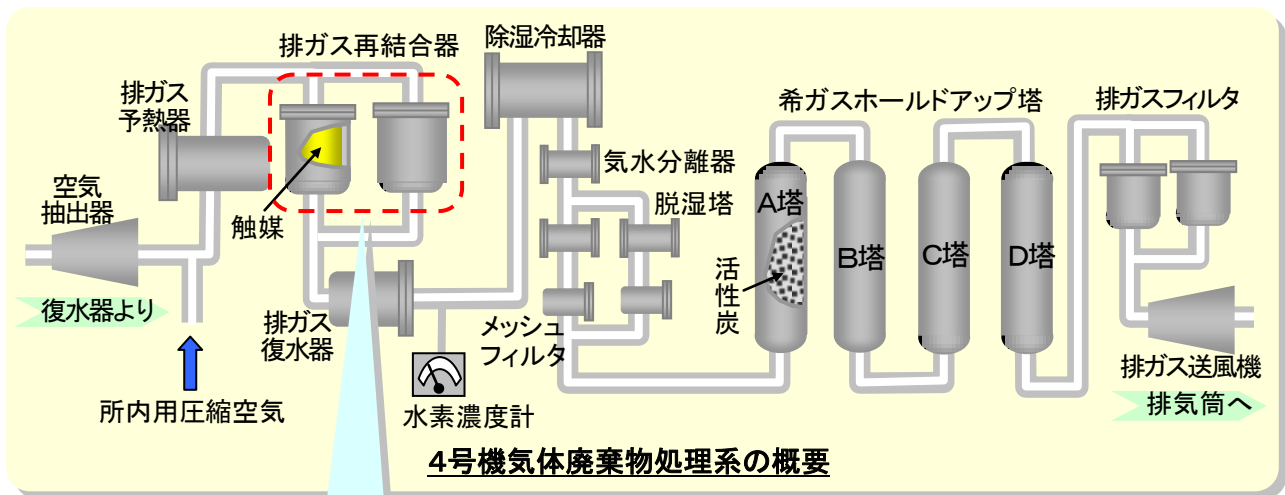
4号機は、調整運転開始後の原子炉起動過程において、発電機出力約55万キロワットで出力を一定保持していたところ、平成21年5月5日午後5時28分、気体廃棄物処理系(※)で系統内の水素濃度の上昇を示す警報(設定値:2%)が点灯し、その後も水素濃度が上昇傾向を示し、午後5時34分、水素濃度が可燃限界(4%)を超えたため、非常時運転操作手順書に従い、気体廃棄物処理系を隔離した後、午後5時49分に原子炉を手動停止しました。
(平成21年5月5日公表済み)

現在、気体廃棄物処理系の点検の準備作業として、同系統内の残留ガスを窒素ガスにより置換する作業を実施していますが、同作業が完了し、その他の準備が整い次第、来週にも排ガス再結合器を開放し、その後、点検を開始する予定です。

また、排ガス再結合器から取り出した触媒を用いて試験等を実施し、水素濃度が上昇した原因について、調査を行います。

調査は、5号機の同系統における水素濃度上昇事象の調査とあわせて実施します。

点検結果および調査結果については、まとまった段階で適宜、お知らせいたします。



※ 気体廃棄物処理系は復水器に流入する「水素」、「酸素」および「気体状の放射性物質(希ガス)」を処理するための系統です。

このうち「水素」と「酸素」は同系統で処理(再結合反応)され水となります。

以上